

## 海外研究・交流

### マレーシア大学サバ校 教育研究に関する同意書 (LOI)

10月30日、鳥取看護大学は、かねてより協定締結を検討していたマレーシア大学サバ校 (以下UMS) と、研究や教育に関する同意書 (LOI) の取り交わしを行いました。

UMSは、マレーシアボルネオ島のサバ州コタキナバル市にある大学で、医学・健康科学部があり、これから看護学部を設置することを考えている大学です。

これまでテレビ電話会議などで、検討を重ね締結に至りました。これにより、両大学の教員や学生の交流の足固めができ、今後は看護について意見を交わし、研究や教育で十分な交流を持つことで、確たる学術協定 (MOU) 締結を行うなど、将来がたいへん楽しみとなりました。



### 「くらし国際交流フェスティバル2018」が開催されました!

11月25日、伯耆しあわせの郷 (倉吉市小田) において「くらし国際交流フェスティバル2018」が開催され、約850名の方が来場されました。鳥取短期大学 国際文化交流学科では、学生・教員が実行委員会スタッフとして、全体の運営を行うとともに「ステージ発表・文化体験・食べ物ブース・活動紹介」など、すべての企画に携わりました。



生活学科食物栄養専攻では、地場産品『食材ロス』の有効活用の一環として三朝神倉大豆おからを利用した「おからケーキ」を400個完売しました。

鳥取看護大学では、倉吉で初めて「グローバルまちの保健室」を行いました。日本人はもちろん地域在住の外国人の方々の健康チェックを行うため、英語版の案内板を準備して対応し、外国人の方を含め57名の参加がありました。



### まちの保健室

9月21日~26日、倉吉市保健センターと協力し、倉吉市13地区公民館で「まちの保健室」を開催しました。参加者から「健康に気をつけるようになった」「楽しみに待っていた」などの声がありました。

また9月24日、「よなご国際交流フェスティバル」においては、「グローバルまちの保健室」を行いました。当日は51名の方が参加され、その中で外国人の方はフィリピン、ドイツ、カメルーンなど6名の方の参加がありました。

### 大学見学会

倉吉市「上灘公民館」(小・中学生16名と引率者6名)、「倉吉市更生保護女性会」(28名)、米子市「和田公民館」(21名)、倉吉市「明倫公民館」(12名)、倉吉市「社公民館」(19名)の方々が鳥取看護大学・鳥取短期大学、紺美術館・紺研究室の大学見学へいらっしゃいました。グローバルセンターでは、大学見学会を随時承っています。お気軽にお問い合わせください。



### グローバルセンターをご利用下さい

鳥取看護大学・鳥取短期大学では、個人・団体による大学見学会、講演会講師の依頼、大学の施設利用や教員の専門分野に関するご相談などに随時対応しています。

詳しくはグローバルセンターまでお問い合わせ下さい。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854  
TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:glocal@ns.cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36 <学生イラスト>REN



# 鳥取看護大学 グローカルセンターだより 鳥取短期大学 Glocal Center

第4号 2019.3.7

## 鳥取看護大学大学院設置認可



鳥取看護大学は、「鳥取看護大学大学院」2019年4月開設に向けてかねてより設置準備を進め、その結果8月31日付で文科省より認可書を受領することとなりました。

大学院は看護学専攻コースの1コースで定員は5名です。在宅看護や地域保健に特化し、医療や福祉、行政機関と連携し取りまとめる「地域イノベーション看護学」や、家庭や地域での子育てに関する「地域子育て支援看護学」などを2年間の教育課程に盛り込んでいます。地域との連携を担う人材育成の強化をはかり、大学院の開設を機にさらに大きく飛躍します。

## 鳥取看護大学完成年度・大学院認可 特別記念講演会

11月24日、ハワイアロハホールにて「これからの看護を担う若者へ〜地元からグローバルに発信できるナース!!〜」と題して特別記念講演会を開催しました。講師は、日本の看護を牽引され、看護の専門性の確立に大きく貢献されている南裕子先生をお迎えしました。

学生や地域の看護職者が、看護についてあらためて考える貴重な機会となり、これからの看護を担う人たちにとっても現在活躍している看護職者にとっても、心揺さぶられる講演でした。



## 京都看護大学との大学間連携協定締結

9月7日、鳥取看護大学は京都看護大学と大学間連携協定を締結しました。調印式では、両大学の理事長より経緯を含めたあいさつがあり、事務局長より内容についての説明がありました。その後各大学の学長から「同じ看護の単科大学が、それぞれの強みを合わせ持ち学びを深めていきたい」との抱負が語られ、連携の方策などはこれから進めていくことなどを確認しました。



## 鳥根県との就職支援協定締結

10月30日、鳥取看護大学と鳥取短期大学のそれぞれが、鳥根県と就職支援に関する協定を締結しました。

鳥根県庁において調印式が執り行われ、鳥根県の関係部局の責任者の方々、鳥取看護大学より近田敬子学長と関係部署であるキャリア支援部の責任者が出席しました。

今後、両大学の鳥根県出身学生のUターン就職促進に向けて、情報交換や支援体制など、より一層の連携を図っていきます。



## 保育・幼児教育の質の向上と保育士養成・確保に関する協定締結



11月6日、「保育・幼児教育の質の向上と保育士養成・確保に関する協定」締結式を本学で行い、平井伸治鳥取県知事と本法人の山田修平理事長が協定書に署名し、固い握手を交わしました。

鳥取県立保育専門学院の廃止に伴い、保育士養成の機能を鳥取短期大学が引き継ぐために、平成25年に締結した協定内容を引き続き行います。また、今春新たに専攻科幼児教育専攻を設け、保育・幼児教育の質の向上、現職保育者や潜在保育士へのリカレント教育（学び直し）、多様化する保育の需要に応じた学習機会を提供することなどに関して、鳥取短期大学は鳥取県と連携して取組みます。



### 鳥取県との連携協議会

11月6日、鳥取県と鳥取看護大学・鳥取短期大学との連携協議会を本学で行いました。この協議会は、平成28年3月に鳥取県と学校法人藤田学院の連携に関する包括連携協定の締結に伴い、年1回開催しています。鳥取県からは平井伸治知事をはじめとする関係部局の責任者の方々が出席されました。毎回、様々な課題解決に向けての協議や意見交換を行っていますが、今回は「専門人材の確保・育成」「若者の県内定着」「地域の活性化」の3つの議題について活発な協議が行われ、鳥取県と本法人の更なる連携強化に向けた確認の場となりました。

## 「とっとりプラットフォーム5+α」共同FD・SD研修会を開催

9月14日、「とっとりプラットフォーム5+α」共同FD・SD研修会を本学大講義室で開催しました。「セクハラ・パワハラ・アカハラ事案にどう取り組むか～危機管理の視点から～」と題して、広島大学ハラスメント相談室の横山美栄子先生を講師としてお招きし、本学教職員をはじめ、鳥取県、鳥取大学、公立鳥取環境大学、米子工業高等専門学校、産業界、一般の方など149名の参加がありました。ハラスメントに関する正しい理解と事案が起こった際の組織としての役割・危機管理の視点・ハラスメント対策の義務などについて学び、改めて向き合い方を考えさせられる貴重な機会となりました。



「とっとりプラットフォーム5+α」

鳥取県内の5つの高等教育機関と自治体および産業界団体が連携・協力して、県内の高等教育および地域のさらなる活性化を図ることを目的として2017年に形成された組織。

FD：(Faculty Developmentの略) 教員の教育能力開発 SD：(Staff Developmentの略) 教職員の職能開発



### とりたん食材まるごと活用プロジェクト

鳥取県は海と山の自然に囲まれ、梨や長芋、カニなど多くの農水産品の恵みを得ている一方で、その製品の加工の際には、端材や加工しにくい食材部位である『食材ロス』が生じています。

鳥取短期大学生生活学科 食物栄養専攻では、鳥取県の農産物の『食材ロス』に注目しました。廃棄される食材の有効活用に向けた研究や商品開発などを行うことにより、「食材をまるごと活用することを提案していこう!」という活動が「とりたん食材まるごと活用プロジェクト」です。これまで活動してきた「三朝神倉大豆おから」の有効利用（おからケーキの作成及びイベント出展）をはじめ、食材ロスの有効活用の普及や地域産業の活性化、食べものを大切に育む心育成に取り組んでいき、地域社会の活性化に貢献していく活動を進めています。

※「とりたん食材まるごと活用プロジェクト」のホームページにて、プロジェクトの詳細や活動の最新情報など随時掲載しています。



## 地域へはばたく学生を PICK UP!

### 消防防災サークル「ToCoToN FAST」 (Tottori College & Tottori College of Nursing Fire And Safety Team)

#### ■概要

7月26日、鳥取看護大学・鳥取短期大学の学生が、防災意識の向上を目的とした、消防防災サークル「ToCoToN FAST」を結成しました。今年度は、シグナス祭（大学祭）において、被災地支援のための募金活動や三朝町大瀬子ども会において、防災士の資格を持った方々とともに地域の子どもたちへ防災学習を行いました。

#### 学生インタビュー



●国際文化交流学科2年  
しみず ゆきの  
清水 文乃さん(部長)



●国際文化交流学科2年  
にしむら あかね  
西村 明音さん

#### Q.なぜ、防災サークルに入ったのですか？

清水：テレビなどで災害のニュースを見ても自分に何ができるのかわからず、防災サークルに入って意識を変えたいと思いました。

西村：学内での説明会の際、災害ボランティアで活動している方々の写真を見て、自分も実際に活動をすれば思いが実感できるのではないかと考えたからです。

#### Q.活動して思ったこと、感じたこと

清水：募金活動をしたとき、みんなが快く募金してくれ、すごく温かさを感じました。子ども会では、親子で参加してもらえたので一緒に防災について考える機会になったと思います。私の父は、地域の消防団に入っているので、私も活動してみて、防災をより身近に感じます。

西村：活動を通して、簡易トイレの作り方や水のろ過の仕方、骨折したときの応急処置の仕方などを学び、とても勉強になりました。

#### Q.今後、活動をどのように活かしたいですか？

清水：災害があったとき、受け身ではなく主体的に動けるようになりたいです。

西村：知識を身につけて、いざというときに役に立てるようになりたいです。どうすればよいか悩むのではなく、一人でできないことは助けを求めるときも必要だと思います。

#### ●生活学科住居・デザイン専攻1年

こばやし かいと  
小林 快斗くん



#### Q.活動を通して学んだこと

子ども会では、子どもたちと一緒に防災のことを学べて楽しかったです。近年、建築において防災に関する法律が厳しくなっていますが、建築面だけでなく、個人でも意識してできることがあるとわかりました。

#### Q.今後、活動をどのように活かしたいですか？

建築・住居系の仕事に就きたいと思っているので、自分が今学んでいることに活かせたらと思います。将来、お客さんに自分たちが建築面でできる防災対策に加えて、家庭でもできることを説明できたらいいなと思っています。

ボランティアなど地域の人と交流することは楽しいと思ったので、地域での活動を今後もやっていきたいです。

#### ■防災士

平成28年10月21日に発生した鳥取県中部地震から地域防災リーダーを中心とした共助による取組の重要性が再確認されました。鳥取県では、平常時・災害時において自助・共助の取組の指導や助言を行うことができる地域防災リーダー「防災士」を養成するため、「防災士養成研修」が平成30年11月に開催されました。本学からも1名の学生が研修を受講し、試験に合格しました。

#### ●生活学科情報・経営専攻2年

「防災士」の資格を取得した  
こだに あつや  
小谷 敦哉くん



#### Q.なぜ「防災士」の資格を取得しようと思いましたか？

防災士の資格取得には、受講料・受験料ともに費用がかかりますが、鳥取県と大学から助成があり、興味があったため受けてみようと思いました。

#### Q.今後どのように活かしたいですか？

資格取得を通して、防災について広く学ぶことができました。鳥取県が防災士育成をサポートしているのは、災害のとき、行政だけでなく住民も率先して行動できるようにする必要がありますからだと思います。防災士の資格取得者は、鳥取県で725人（平成30年12月末時点）いますが、まだまだ認知度が低いと思います。サークルメンバー全員で研修や、地域での取組に参加することなど、身近でできる防災対策をやっていけたらと思います。

#### ■大学事務局と意見交換会を開催！

1月29日、学内において、自主防災に向けた意見交換会を行いました。学生たちは、タンク式給水器や非常用発電装置の設置、非常食・飲料水の備蓄、バリアフリー化の他、サークルメンバーが避難時の伝達・誘導係などを共同で担っていくことや、消火器・AEDの使い方について研修を行うことなどを提案しました。



▲ 三朝町大瀬子ども会の防災学習の様子

▲ 大学事務局との意見交換会の様子